平成29年度　学校経営計画　各部署重点目標と達成方法

重要度

[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度

[4]75～100%
（ほぼ達成した）
[3]50～74%
（まあまあ達成した）
[2]25～49%
（あまり達成できなかった）
[1]0～24%
（ほとんど達成できていない）

国語科　平成29年度重点目標		
項目1	目標	① 各学年または発達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。
	達成方法	① 漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期に実践する。また、読書や副教材やプリントを用いた課題（宿題）を課題として与えることで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。
		中学では読書指導や新聞作り百人一首の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に関心を持たせていく。
		また、中学段階から論理的に物事を考え、理解するための言葉や文章を身につけ、高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方があることを知り、視野を広げて物事を考えられるようにするとともに、自分の考えを筋道立てて表現できるようにする。
		また、古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。
項目2	目標	② 生徒達が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。
	達成方法	② 授業では、音読の機会、発問の機会、生徒達の発表や発言の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。
		多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙やさまざまなものの考え方や感じ方に触れさせ、習得させていく。タブレットの活用と、「すらら」「受験サプリ」などの自習教材アプリを活用し、能動的な学習を習慣化させる。
項目3	目標	③ 電子黒板や音声教材、映像教材を取り入れた授業を実践する。
	達成方法	教員間で密に連携しながら、授業研究を深める。授業見学なども積極的に行う。本文掲載や板書補助、映像や音声資料を電子黒板で積極的に活用する。タブレットの活用により、意見、発言のアウトプットを促す。
項目4	目標	④ 生徒の進路実現の為に、個別に親身になって生徒に対応する。
	達成方法	成績不振者（定期考査・小テスト）には放課後や長期休業中に課題や補習を課してボトムアップをはかるとともに、力のある生徒に対しても授業や放課後講習などで積極的に演習（入試問題演習）を実践して、能力を伸ばしていく。

		項目1		項目2		項目3		項目4											
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		4.0	3.4	3.9	3.1	3.3	3.4	3.7	3.3										
1		4	3	4	2	3	2	4	3										
2		4	3	4	4	4	3	4	3										
3		4	4	4	3	2	4	3	4										
4		4	3	3	3	3	3	4	3										
5		4	3	4	3	3	2	4	3										
6		4	3	4	3	3	4	3	3										
7		4	4	4	4	4	4	4	3										
8		4	3	4	3	4	4	4	4										
9		4	3	4	3	3	4	4	3										
10		4	4	4	3	3	3	3	3										
11		4	4	4	3	4	4	4	4										
12																			

〈取組状況・次年度への課題など〉
根幹である「授業で基礎学力を身に着ける」ということに関しては、項目1にある通り誰もが最重要課題と捉え、例年通り取り組むこともできている。
一方で、今後の方針ともなるアクティブラーニングやタブレットの活用などに関しては、項目2・3を見て分かる通り、一によって差がある状況で、
学年間や教員間の差が出ないように情報共有やトレーニングを継続していく必要がある。

重要度

[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度

[4]75～100%
（ほぼ達成した）
[3]50～74%
（まあまあ達成した）
[2]25～49%
（あまり達成できなかった）
[1]0～24%
（ほとんど達成できていない）

地歴公民科　平成29年度重点目標

項目1	目標	生徒一人一人があらゆる物事に興味・関心を持ち、自ら学び考える姿勢を持つことができるよう教科教員一丸となってサポートする。 それによって、あらゆる世界・あらゆる社会の中で自身の生き方・在り方を考えられる生徒の育成を目指す。
	達成方法	教員一人一人が既存の授業形態にとらわれず、授業の質の向上を図る。電子黒板やタブレットなどのICTやアクティブラーニングなどの授業手法を積極的に導入する。
		自ら学び考える姿勢を育成するために、課題・考査構成や評価方法を見直す。知識習得にとどまらず、得た知識を踏まえた自己表現やクリティカルシンキングを重点に置いた課題・考査・評価を実施していく。
		各クラス担当者に一任せず全クラスの指導を教科全体で取り組む。特に多面的な指導を必要とするグローバルリーダーズクラスの指導に関しても教科全体で取り組み、その指導を確立する。
項目2	目標	生徒が世界・社会の劇的な変化に対応できる力を有し、生徒一人一人が未来社会で活躍できる進路選択実現のための学力や生きる力の育成を目指す。
	達成方法	通常授業の質の向上とともに、大学入試問題研究の継続、補習・講習の積極的実施などによって各学年で設定された数値目標を達成する。
		大学入試改革、指導要領改訂を見据え、外部研修会への積極的参加など情報収集を行い、教科内での情報の共有化と検討を重ねる。また、資料の読解・活用の力を育成することを強く意識した授業・考査を実施する。
		教員側も社会・教育の劇的な変化に対応するため、既存のカリキュラムや進度を根本から見直し、教育内容を再構築していく。

		項目1		項目2															
		重要度	達成度	重要度	達成度														
部署コード/平均		3.8	2.6	3.7	2.6														
1		4	3	4	3														
2		3	1	3	2														
3		4	2	4	2														
4		4	2	4	3														
5		4	3	3	3														
6		4	3	4	2														
7		4	3	4	3														
8		4	4	4	3														
9		4	3	4	3														
10		3	2	3	2														

〈取組状況・次年度への課題など〉

項目1に関して、個々の教員が授業力の向上や評価方法の改善に取り組んではいたが、教科全体で共有するところまでには至っていない。
定期的に意見交換や授業研究を行い、教科全体の指導力向上につなげていく。
項目2に関して、大学入試問題研究の継続、補習・講習の積極的実施は実行できていたが、教科全体としてカリキュラムの検討や教育内容の再構築までには至っていない。カリキュラムの検討については情報収集は進んでいるので、最優先事項として、今年度から来年度にかけて取り組む。
重要度に関して、共有化に努めてはいるが不十分である。また、達成度に関してはもう少し目標を細分化・明確化することで、詳細を明確にしていきたい。

重要度

[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度

[4]75～100%
（ほぼ達成した）
[3]50～74%
（まあまあ達成した）
[2]25～49%
（あまり達成できなかった）
[1]0～24%
（ほとんど達成できていない）

数学科　平成29年度重点目標

項目1	目標	授業の質の向上（アクティブラーニングの実施など）
	達成方法	研究授業を各自行い、意見を交換し合う。
		研究授業以外でも、授業見学を積極的に行う。
項目2	目標	ICTの活性化
	達成方法	タブレットを使った授業の実践。すららやスタディサプリを用いて自学自習を促したり、自分の作った解答を交換し合い、自らの学習姿勢を整える。
		模試や、大学入試問題の解説をビデオに撮り、インターネット上でいつでも自学自習できる環境を整える。
項目3	目標	基礎学力の定着
	達成方法	MMTや小テスト等のこまめな実施。合格点を設け、合格するまで丁寧に指導していく。
		外部模試を検証し、弱点を随時把握し、講習等を用いて補強していく。
		中学3年生、高校1年生は数学検定を全員受検。他学年においても推奨していく。
項目4	目標	高2までに教科書終了
	達成方法	夏期・冬期講習で教科書内容を進めていく。
		学力定着の状況に応じながらも、進度計画を確実に実践する。
項目5	目標	変わりゆく大学入試への適切な対応
	達成方法	大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有する。また、その入試問題の特徴をシートにまとめ、生徒へ情報還元する。
		研修などに参加し、教科で情報共有する。

		項目1		項目2		項目3		項目4		項目5									
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度								
部署コード/平均		3.5	2.2	3.3	2.4	3.6	3.4	3.5	3.6	3.6	2.8								
1		4	2	4	2	4	4	4	4	4	2								
2		4	2	4	3	4	3	4	3	4	2								
3		3	3	2	1	3	3	3	3	4	3								
4		3	2	2	2	3	4	4	4	3	3								
5		4	3	4	3	4	3	3	3	3	3								
6		1	2	1	3	1	4	1	4	1	3								
7		4	2	4	3	4	3	4	3	4	2								
8		4	3	4	3	4	3	4	4	4	4								
9		3	1	4	2	4	3	4	4	4	4								
10		4	1	4	2	4	4	4	4	4	2								
11		4	2	4	2	4	3	4	4	4	2								
12		4	3	3	3	4	4	3	3	4	3								

〈取組状況・次年度への課題など〉
概ね、重要性が高く数学科として共通認識ができている。あとは、達成するためにどのように取り組むかである。
特に、項目1，2，5が達成度が低い。授業見学へは意識改革を全教員でしていかなければならない。項目2のICTにおいては、ビデオを作成し家庭学習の環境を整えることはできたが、タブレットを使った授業展開がまだまだ不十分である。各個人による差があるので、授業でのタブレット活用術など、研修などで情報を仕入れて、教科会で定期的に実戦訓練をしていかなければならない。項目5においては、担当学年にかかわらず各自大学入試問題を解くことはできている。今後は、さらに＋αを意識し、その解いた問題に対する意見交換会を実施していかなければならない。

重要度

[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度

[4]75～100%
（ほぼ達成した）
[3]50～74%
（まあまあ達成した）
[2]25～49%
（あまり達成できなかった）
[1]0～24%
（ほとんど達成できていない）

理科　平成29年度重点目標

項目1	目標	①中学生および高校1年生において、理科に興味関心を抱き、生徒自らが進んで学習し、基礎学力の定着および成績向上することを目指す。
		②高校2・3年生の生徒において、生徒が目標とした進路実現ができる実力をつけることを目指す。
	達成方法	①授業中は、生徒が主体的に学習活動を行えるような書く・考える・発言する・話合うなどを多く取り入れる。
		妻中サクセスを取り入れた授業を実施し、授業内に小テストや振り返りを行うことにより、学力の定着を図る。
		実験・実習における授業においても、事前の計画・事後の振り返りを重点的に行い、知識の定着とともに理科への興味関心を引き出す。
		②知識の定着とともに、問題演習を行うことにより、より発展的な知識理解ができるような授業展開および考査を実施する。
		さらに、教科内での教員が情報共有を行い、大学入試問題の研究を行っていく。
項目2	目標	グローバル教育をはじめとした「生きる力」を育成できる理科教育を行うことを目指す。
	達成方法	GLCだけではなく、全学年・全クラスでグローバル教育を意識し、理科教育において必要な英語を授業で取り入れる。
		授業内で、海外の論文の紹介や、高校生では受験問題で出題される理科英語などを紹介することでグローバル化を意識づける。
項目3	目標	タブレットおよび電子黒板等のICT機器を活用した授業展開を行う。
	達成方法	中学1年生～高校2年生では、授業内のみならず家庭学習において有効に活用できる教材研究を行っていく。
		中学、高校問わず、全学年で活用できるようなデジタルコンテンツの充実をはかる。
		教員が研修会等への参加を積極的に行い、教科内で共有し、ICT教育の充実化進める。

		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		4.0	3.2	3.0	2.2	3.0	2.7												
1		4	4	3	1	3	2												
2		4	3	4	3	4	3												
3		4	3	2	2	3	2												
4		4	4	4	3	3	3												
5		4	4	3	2	3	3												
6		4	2	3	2	3	3												
7		4	3	3	2	3	3												
8		4	3	3	3	2	2												
9		4	3	2	2	3	3												

〈取組状況・次年度への課題など〉
項目1においては、全教員が意識して取り組み、比較的達成できているような自己評価となっている。学校全体で妻中サクセスを意識した授業や、アクティブラーニングのような主体的に学習できるような授業展開を今年度は理科として取り入れるようにしてきた結果になったと思う。また、高校生においては、生徒が授業内容を理解するだけにとどまらず、理系の生徒においては、より発展的な内容に着手できるような問題演習にも取り組んできた。
項目2においては、まだ重要度も一番にはできず、最優先項目にしきれなかったため、達成度が全体的に低くなってしまった。授業で英語を取り入れるにしても、重要語句を英語にするといった引き続き意識していきたいと思う。
項目3においては、電子黒板は必需品となり日常的に使用できており、年々教材も増えてきているが、タブレットにおいてはまだ開発途中の部分が垣間見れる。項目1の生徒が主体的に学習するために、ロイロノートやmanabaなどを利用して宿題や予習を行う使い方、授業で使用した教材をロイロノートで配信して事後学習に使用するなどといった、各教員による使い方を今後さらに教科内で共有していきたいと思う。

重要度

[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度

[4]75～100%
（ほぼ達成した）
[3]50～74%
（まあまあ達成した）
[2]25～49%
（あまり達成できなかった）
[1]0～24%
（ほとんど達成できていない）

保健体育科　平成29年度重点目標

項目1	目標	自ら学ぶ姿勢
	達成方法	実技時、グループワークを増やし学び合いの時間を増やす。
		他者の動きを見て、自分の動きとの違いを認識し、修正していく。
		実技種目のタブレット活用、動画撮影をして自分の動きを認識する。
項目2	目標	生きる力の育成
	達成方法	「体育の心得」を元に、基本的な授業を受ける姿勢を育む。
		持久力･筋力･体幹を鍛える
		ダンス発表など、他者との協力によって連帯感を強め、責任ある行動をとれる生徒を育む。
項目3	目標	教育環境の質向上
	達成方法	施設･用具･時間割の見直し
		土曜授業の施設しようについての検討

		項目1		項目2		項目3	
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度
部署コード/平均		3.4	3.0	3.8	3.4	3.6	3.0
1		4	3	4	4	3	3
2		3	2	4	3	4	3
3		4	3	3	3	3	4
4		3	4	4	4	4	2
5		3	3	4	3	4	3

〈取組状況・次年度への課題など〉
自ら学ぶ姿勢に関しては、実技科目を中心に学び合う機会を増やし実施することができた。
他者と自身の動きを比較できるまでには至らなかった。
マット運動など、タブレットで動画撮影するなど工夫したが、球技授業時のタブレットの扱いには検討の必要あり。（破損の恐れ）
生きる力の育成に関しては、授業を受ける姿勢･基礎体力の向上･リーダーシップを発揮しての連帯感など育むことができた。
教育環境の質向上に関しては、用具は充実しているが、少ないスペースで2クラス同時授業など複数あったので、来年度は改善の必要がある。
来年度には、保健だけでなく体育でもタブレットを活用する方法を検討する。特に、中学保健授業の取り組みを教科で考えていく。

重要度

[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度

[4]75～100%
（ほぼ達成した）
[3]50～74%
（まあまあ達成した）
[2]25～49%
（あまり達成できなかった）
[1]0～24%
（ほとんど達成できていない）

芸術科　平成29年度重点目標

項目1	目標	グローバル人材育成のため21世紀型アクティブラーニングを授業の中に取り入れていく
		また、電子黒板、タブレットなどのICTを使って、よりわかりやすい授業を展開していく
	達成方法	・授業の中で生徒同士、生徒と教員の意見交換相互理解の時間を持つ
		・授業の導入時に電子黒板、タブレットなどのICTを利用して楽しく学び、課題の理解を深めさせる
		・タブレットの記録機能を使い、自分たちの演奏、作品を客観的に知ることにより、高いレベルの演奏、作品を目指し、自主的に進める力を養う
項目2	目標	丁寧な対面教育を心がけ、生活習慣の基礎を身に着けさせる
		芸術活動を通じて「豊かな心」を養い、「努力の後の達成感」を培う
	達成方法	・授業での挨拶、姿勢、態度にも気を配り、生活習慣の基礎を身に着けさせる
		・音楽・美術・書道それぞれの科目の中で、与えられた課題に対しての意味を考え、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う
		・高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる
項目3	目標	芸術を通じて地域活動に参加する
	達成方法	・地域での芸術活動（コンサート、展覧会等）に積極的に参加し、地域活動の大切さを気付かせる

		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		3.7	2.3	4.0	4.0	3.0	2.0												
1		4	3	4	4	3	2												
2		4	2	4	4	3	1												
3		3	2	4	4	3	3												

〈取組状況・次年度への課題など〉芸術科は音楽、美術、書道と科目により学習傾向が違うため、重要度、達成度に違いがあるが、項目2は同じ結果となり、ほぼ予定通り授業を実施できていた。項目1のアクティブラーニングは芸術科では日常的に行っているが、電子黒板、タブレットなどのICTに関しては限られた場でしか利用できなかった。項目3は、授業時間の都合上限られた学年、限られた場での参加となった。また、鑑賞して言葉や文章で発表する形式は整ってきた。電子黒板、タブレットなどのICT授業研究に関して今年度は科目内での研究にとどまり、教科での話し合いの機会が少なかったため、来年度以降話し合いの機会を増やしていきたい。

重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% （ほぼ達成した） [3]50～74% （まあまあ達成した） [2]25～49% （あまり達成できなかった） [1]0～24% （ほとんど達成できていない）	外国語科　平成29年度重点目標		
	項目1	目標	「実践的英語力」を目指した英語の授業の充実を目指す。
			アドバンストクラスの生徒もコアクラスの生徒もその区別なく、英語をコミュニケーションの道具として理解し、実際の場面で使えるようにする。
			英語学習が目的ではなく、生徒それぞれの目的を達成するための強力な力であるという認識を生徒も教員も全員で共有する。
		達成方法	・クラスルームイングリッシュを多用し、授業はなるべく英語を使って教える。日本人教員は50%以上英語を使用する。
			・オンライン英会話を週1回行うことで、英語での実践的な会話力を養う。それによって英検の取得率を上げる。
			・アクティブラーニングを実践し、ピアサポートの中で生徒が英語でコミュニケーションを取るようにする。
			・タブレットのロイロノートを使って、生徒がグループワークで課題プレゼンテーションを英語でするように指導する。
			・スピーチコンテストの指導を通して、生徒が大勢の人に対して自分の意見を英語で自信を持って発表できるようにする。
			・ディベートの指導を通して、生徒が相手の立場を理解して、論理的に考え、自分の考えを相手に効率的に英語で伝えられるようにする。
	項目2	目標	大学合格率の向上を推進する。
			アドバンストクラスの生徒は国立・私立難関校に過半数が受験するようにする。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようにする。
			コアクラスの生徒はGMARCHレベルの大学に過半数が受験するようにする。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようにする。
			帰国生の生徒は海外大学に4分の1が受験するようにする。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようにする。
		達成方法	・電子黒板を利用を促進する。教科書本文の解説、英文法や英語構文の分析・解説を電子ペンを使ってわかりやすく行う。
			・パワーポイントを利用して、動画やイラストを見せたり、アニメーション機能を使って英文を立体的に理解できるようにする。
			・デジタル教科書のフラッシュカード、スラッシュリーディング、シャドーイングなどの機能を使って生徒の理解を促進する。
			・タブレットのe-learningで家庭学習を促進し、英語の合計学習時間を学校での授業時間の2倍以上になるようにする。
			・授業のスピードを上げ、教科書を早く終わるようにし、次年度に残さない。余裕の時間を利用し模試対策を授業時間内に実施する。
			・早朝・放課後の補習体制を整え、理解の遅い生徒を助け、生徒の全体的なレベルアップに繋げる。
	項目3	目標	グローバルリーダースクラス（GLC）の充実を図る。
			GLCの授業活動が牽引力となってアドバンストクラス・コアクラスの授業が変化するようにする。
			それによって、学校全体が「グローバル」の意識を持って、世界の課題を理解し、主体的に考えて行動するようにする。
			英語だけでなく第二外国語としてのフランス語の教育の普及を促進する。
		達成方法	・ネイティブと日本人教員の協力を進め、教員間の英語でのコミュニケーションを密にする。教科会での英語の使用を多くする。
			・英語の授業を教員がお互いに参観する。必ず授業後の意見交換をする。
			・校外の様々な研修会に英語教員が積極的に参加する。また校内で英語ディベートの研修を行い、英語表現にディベート学習を導入する。
			・他教科の教員と連携を深める。特に生徒が日本語でディベートが出来るように、校内の環境を整える。
			・海外提携校との連携を深める。帰国した生徒同士が交流する機会を多くする。両校の教員同士が互いを理解し新たな企画をする。
			・外国語発表会やコリブリの交流・留学を通じてフランス語の学習を盛んにする。仏英語のネイティブの授業環境を準備する。

		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		3.6	2.8	3.7	3.1	3.7	2.9												
1		1	3	4	2	4	3												
2		4	3	4	3	4	2												
3		3	4	3	3	4	4												
4		4	3	4	3	4	3												
5		3	2	4	3	3	3												
6		4	2	4	3	4	3												
7		4	3	4	3	4	3												
8		4	3	4	3	4	3												
9		4	3	4	3	3	2												
10		3	3	3	3	3	3												
11		4	3	3	4	4	3												
12		4	3	4	4	4	4												
13		3	3	3	3	3	2												
14		4	2	4	4	3	3												
15		4	3	4	3	4	3												
16		4	2	3	3	4	3												

〈取組状況・次年度への課題など〉
項目1について
日本人教諭の英語使用率50%以上の目標の達成にはまだ距離がある。しかし、クラスルームイングリッシュを使って少しずつ英語の使用を増やしていることと、日本人教諭とネイティブ教員との連携も密になってきたので、今後よい方向に向かうと思われる。
生徒の学習環境としては中1から高1まで週1回のオンライン英会話が浸透して英語をコミュニケーションの手段として使用することが多くなってきた。また英検の校内実施を年1回から年2回に増やしたことで生徒が英検に積極的に取り組むようになってきた。これも今後成果を出して行くと思われる。
授業におけるタブレットの使用、ロイロノートでの教材の配信・提出も多くなってきて、生徒が毎日の授業でタブレットを使う環境が整ってきた。
スピーチコンテストについては今年度は外国語発表会を実施しない状況で、学年毎の取り組みとなった。

項目2について
授業のIT化は順調に進んでいるが、それが直接大学合格率の向上につながるかどうかは不明である。むしろ生徒自身のチャレンジ精神と集中力、忍耐力の向上がキーポイントで、外国語科教員も様々な種類の英文に慣れるよう努力を傾けている。ネイティブ教員の貢献度も大きいと思う。よい結果が出るよう期待している。

項目3について
今年度は短期、ターム、1年間の留学に出かける生徒の数が増加している。また留学から帰国して生徒やGLCクラスの生徒が校内で英語を使う運動を始めたこともよい傾向である。フランス語についてもGLCクラスの生徒数の増加に伴いフランス語を学習する生徒が多くなり、またコリブリで留学する生徒も増えたので今後に期待できる。
校内でディベートなど自分の考えを日本語や英語で発信する状況はまだ実現していないので、今後生徒の論理的思考、相手の意見を聞く態度、英語の運用能力の向上に努めて行きたい。

重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	家庭科　平成29年度重点目標		
	項目1	目標	・アクティブラーニング授業を展開し、「自ら学ぶ姿勢 」を身に付け、生徒自らが実践していくように導く、質の高い授業を展開できるようにする。
			・技術分野で、将来、プログラミン教育を取り入れていけるよう準備を進める。
		達成方法	・質の高い授業展開を目指して、電子黒板 ・タブレットなどの ICTを 充分活用 した指導ができるよう、自己啓発し、開発、研修に力を注ぐ。
			・女子に受け入れやすい分野のプログラミングの分野を研究する。
	項目2	目標	・社会人として必要な生活の基本である「7つのルール」 を徹底する。日本の伝統文化やマナーの学習で、特にが「あいさつ」「清掃美化」「 生活習慣の基礎」をしっかり身につ けられ、人間力が備わった上で、学力 がつくことを目ざして指導する。
		達成方法	・日々の授業で、「7つのルール」にのっとった授業を展開する。特に、挨拶は繰り返し指導することで身体化を目指す。
			・学習の中で、生活環境を整えることの大切さを知り、清掃美化が心身ともに健康であるために大切であることを知らせる。
			・学力は、知識のみでなく、実践を伴ってこそ生かされることを学習の中で理解できるように指導する。
	項目3	目標	・「目標に向かって最後まで諦めず努力する姿勢」を 培える場面を多様に配置する。
		達成方法	・実習・課題、検定等を通して、成功体験を重ねることで、自らの行動に自信と誇りを持つことができるようにする。さらに、最後まで諦めず努力することの素晴らしさや、やり遂げたときの晴れやかな達成感を体感することで、さらにその気持ちを高められるようにする。

		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		**4.0**	**3.5**	**4.0**	**3.0**	**4.0**	**3.0**												
1		4	4	4	3	4	3												
2		4	3	4	3	4	3												

〈取組状況・次年度への課題など〉

全体的に重要度・達成度の共有ができている。

家庭科は、知識を利用して、実践する総合教科であり、アクティブラーニングを実践する教科であるが、教員がファシリテーターとしてのみになるようにし、生徒が主体的に課題を見つけ出し、その解決に取り組んでいくように、授業展開を変換するようにしていきたい。家庭科やそれ以外の各教科で学習した内容が身に付き、実践していけるように変換していきたい。

プログラミングの考え方を取り入れた、実習の進め方を実践した。生徒が主体的に活動するようなったが、理論面での深め方が不足しているので、なぜどうしての探求にまでつながっていくように改善していきたい。

7つのルールと関係づけてのマナー学習などは良好な状態であったが、生活感の薄い生徒に意識付けをしていくのがこれからの課題である。

実習や検定での小さな成功体験から、積み上げる成功体験を目指した。実習では、着実に成功体験を積み上げたり、改善の工夫を導き出すことができた。検定では、普段の生活の中で積み上げられる技術や思考の面での不足が足を引っ張り、全員合格とはいかなかったのが残念である。何回かの補習や練習では補いきれないので、早めに気付かせるように指導したい。

重要度

[4]大変に重要
[3]やや重要
[2]あまり重要でない
[1]重要でない

達成度

[4]75～100%
（ほぼ達成した）
[3]50～74%
（まあまあ達成した）
[2]25～49%
（あまり達成できなかった）
[1]0～24%
（ほとんど達成できていない）

情報科　平成29年度重点目標

項目1	目標	オフィスソフトなどを、より効率的に習得させ、それらを日常的に活用できる力をつける。
	方法	Word、Excel、Powerpointを、スクリーンに操作方法を示しながらの説明と、個別対応とのバランスを考え、より理解を深められるよう、演習の効果を向上させる。
項目2	目標	「情報」を扱う上での技術的な基礎知識を習得させる。
	達成	コンピュータやネットワークなどのしくみや歴史、2進法、16進法等について、視覚的に示し、また計算例を効果的に示すことにより、興味を持たせ、演習問題に習熟させる。
項目3	目標	情報モラルや著作権などの知識を習得させる。
	方法	情報モラルの大切さや著作権法の重要性を理解させるため、身近で、より具体的な事例を示すとともに、法律間の有機的な関係を示すことで、理解を深めさせる。

		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		4.0	3.0	4.0	3.0	4.0	3.0												
1		4	3	4	3	4	3												

〈取組状況・次年度への課題など〉項目1はある程度達成できた。個別対応とのバランスが難しいので引き続き、対応に注意しながら指導していく。項目2はある程度達成できた。基本事項はおおむね理解しているようである。項目3もある程度達成できた。事例を示すことにより理解が深まっていった。全体的にはある程度達成できたが引き続き理解を深められるよう指導していく。